

ぱれっと

10月 2013
No.170

“ぱれっと”には、サポセンにいる
いろんな人が集まり、それぞれの色
(個性)が発揮され、新しい出会い
や活動が生まれていく…そんな願い
がこめられています。

sapo

元気な中学生が職場体験にきてくれました！



P2 ~ P3

協働 のまちづくり SENDAI ▷

被災地内外の相互交流を協働で実現 浜松市⇄気仙沼市本吉町

P4

復興へのあゆみ ▷ 支援長期化 燃え尽きないで 長く支援を
支援者のこころのケアに取り組む

P5

つながる つなげる サポセン ▷ 続・NPOいろは塾

P6

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

被災地内外の相互交流を協働で実現 浜松市 ⇄ 気仙沼市本吉町

2013年8月20日～22日、気仙沼市本吉町の「小泉自然楽校」で、静岡県浜松市の中高生と地元の中学生の交流キャンプが行われました。震災直後から続く、被災地と浜松の子どもたちの相互交流。それを支えたのは、地域を超えた協働による取り組みでした。

行政の枠を超えた民と民のつながり

震災直後、行政の支援が行き届かない地域へ支援物資の提供を始めた「東日本大震災復興支援市民活動ネットワーク宮城」（以下、ネットワーク宮城）。全国から届いた支援物資を仙台の事務局でパッキングし、まだ支援の届いていない地域へ手分けして届け、届けた先で今必要な支援のニーズを聞きだし、次に必要なものを届けるという草の根の支援活動を行いました。「今すぐ必要なものを必要な人に届けたい」と考えていた人たちにとっても、ニーズに即応するその活動は、頼りがいのあるものでした。

一方、浜松市民協働サポートグループが運営する浜松市市民協働センターでは、浜松市民からの善意の支援物資が集まっていて、その送り先を検討していました。行政同士は災害時に相互応援する自治体が決まっていますが、民間団体同士だからこそ「今すぐ必要なものを必要な人に届ける」ことを重視し、ネットワーク宮城に支援物資を送りました。

被災地の経験を伝える「減災キャンプ」

ネットワーク宮城は活動を続ける中で、気仙沼市本吉町に対する支援が遅れていることに気づきました。もともと、2009年の市町村合併で気仙沼市に編入された本吉町は、気仙沼市に入っている支援が届きにくい現状がありました。そこで本吉町の小泉地域につくられたのが「小泉自然楽校」です。ネットワーク宮城の代表、阿部寛行さんが初代校長に就



▲小泉自然学校で減災キャンプを体験する浜松市の中学生

任しました。ボランティアの活動拠点として購入したドームハウスを滞在施設として活用。現在、減災キャンプなどのプログラムを実施しています。

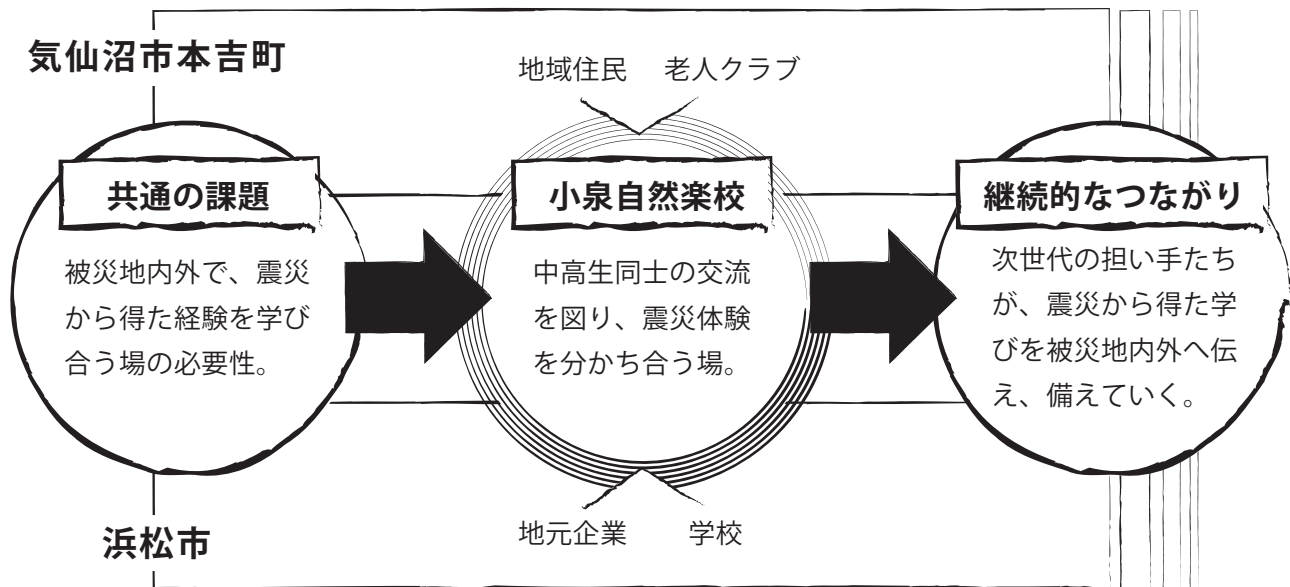
減災キャンプは、小泉自然楽校のキャンプ場を使用し、電気のない中で、水の使用量を制限するなど震災時に近い状況下での暮らしを体験するほか、被災者から震災の話を聞くプログラムも用意されています。いざという時に、この減災キャンプでの経験を生かしてもらおうというねらいで実施しています。「被災地・被災者を外からのボランティアが支援する時期から、外の人たちが被災地・被災者の経験に学ぶ時期へと変わってきています。小中学生・高校生など若い世代が経験を分かち合うことで、震災のことをしっかり胸に刻んで欲しいと思います」と阿部さん。

地元企業や地域が中高生の交流を支援

震災の年の夏休みに浜松市市民協働センターが企画した、被災地の子どもたちを浜松へ招待するプロ

協働のポイント

東日本大震災で被災した本吉町、東海地震の発生が危惧される浜松市。被災地内外で震災の体験を共有する場を作るにあたり、お互いの地域のネットワークを生かし、相互交流を実現しました。



プロジェクトには、ネットワーク宮城が訪問していた被災地域の子どもたちなど20名が参加。浜松の地元企業や商店が協力し、被災地の子どもたちをもてなしました。こうして、被災地と浜松の相互交流が始まりました。

今回行われた浜松市の中高生と地元の中学生の交流キャンプは、ネットワーク宮城と浜松市市民協働センターの関係の中から生まれた企画です。浜松市市民協働センターから、中高生が被災地を訪れ経験したことが、いつ起こるかわからない災害時にきっと役立つという思いを、地元企業に伝え、学校に話を持ち込みました。賛同した企業からの協賛と学校の理解により実施にこぎつけました。これは、浜松市市民協働センターが、普段から地元企業や地域と顔が見える関係を築いてきたからこそ実現できたことです。

交流キャンプ当日、参加した中高生のために食事のお世話を手伝っていたのは、地元本吉町の老人クラブの皆さんでした。また、浜松の中学生は、本吉町の民家に2日間宿泊(民泊)し、地元住民の皆さんと交流しました。住民有志の協力により、地域ぐるみでのおもてなしが実現しました。

(太田貴)



▲ 地元老人クラブの皆さんへ浜松の中学生からお礼の言葉

▷ 小泉自然楽校 減災・避難所体験キャンプ場

〒988-0321 宮城県気仙沼市本吉町小浜無番地

TEL : 070-5018-1023

Mail : koizumisizengakukou@gmail.com

<http://ameblo.jp/koizumishizengakko/>

▷ 東日本大震災復興支援市民ネットワーク宮城

代表 : 阿部 寛行さん

Mail : info@network-miyagi.org

<http://network-miyagi.org/>

▷ 浜松市市民協働センター

(運営 : 浜松市民協働サポートグループ)

〒430-0929 静岡県浜松市中区中央1丁目13-3

TEL : 053-457-2616

Mail : kyoudou@machien-hamamatsu.jp

<http://www.machien-hamamatsu.jp/>

支援長期化 燃え尽きないで長く支援を 支援者のこころのケアに取り組む

「支援者のための支援センターTOMONY」は、震災後、仙台市を拠点として活動する7つの団体が集まり設立されました。設立後は、支援者のための支援を目的に「支援者のこころのケア」に関する研修を実施したり、バスツアーなどのリフレッシュプログラムを実施して「支援者のための支援」について知ってもらう活動を展開してきました。

「場の提供」の取り組みとして、2013年8月22日「TOMONYサマーカフェ」が開催されました。支援の現場では決して話すことができない支援者ならではの悩みを話しあったり、情報交換などが自由な雰囲気の中で実施されました。



▲ TOMONY サマーカフェでの交流の様子

TOMONY サマーカフェのひとコマ

カフェでは、TOMONY 主幹団体でもある「NPO 法人 FOR YOU にこにこの家」代表理事の小岩孝子さんの活動報告をお聞きした後、心づくしの食べ物が並ぶテーブルを囲み、カップ片手に情報交換を行いました。参加者は日頃、被災地支援に携わっている社会福祉協議会スタッフ、NPO 職員、ボランティアスタッフなどさまざまな立場の方々です。

被災した子どもたちへの寄り添い活動を続ける大学生がとつとつと語る姿がありました…「私が何をすれば成果が出るのか見えないのです」。TOMONY スーパーバイザーで、HEAL ホリスティック教育実践研究所長の金香百合さんは、優しく関西弁で語りかけます。「通い続けて、まず顔を覚えてもらって、そうしたら少しずつ心を開いてくれるねん。いきなり仲良くならなくてええねん。あせったらいかん」。

TOMONY では、支援者は心と体の健康のバランスが重要だと伝えていきます。体は規則正しい生活で保たれ、弱った心は、良い聞き手に話すことで心の負担を手放すことができるのだそうです。TOMONY カフェでは、参加者それぞれが「良い聞き手」となり、心の負担を軽くするために、お互いがお互いの支援者となっているのだと感じました。話すことで心が少し軽くなって、明日からの活動に戻って行くことができるのです。

もっとたくさんの支援者に参加してもらいたい！

事務局の須藤敏子さんは、「大震災から3年をむかえ、支援の長期化で心身の調子を崩す人が増えています。TOMONY の活動の情報が届いていない支援者はまだまだいらっしゃるはず。燃え尽きないで支援し続けるためにも、TOMONY カフェにぜひ参加して下さい」と話されていました。(鈴木美紀)

団体紹介

支援者のための支援センター TOMONY

対象は支援に携わる方、一般市民の参加も OK です。

(主幹団体/NPO法人FOR YOU にこにこの家、NPO法人石巻復興支援ネットワーク、ウェザーハート、ほっとスペース、みやぎ生活協同組合、地域社会デザイン・ラボ、コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL DO)

主な事業

- ▶「支援者のための支援」の周知啓発
- ▶「支援者のための支援の場」の提供
- ▶「支援者のこころのケア研修」(保養と研修)

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2丁目3-15 花本ビル8階
TEL: 070-5623-4408 FAX: 022-299-4322
Mail: office@tomonyjapan.com
HP: <http://www.tomonyjapan.com/>

続 NPOいろは塾

つながる
つなげる
サポセン

NPO いろは塾受講者の「いろはの“い”の次をもっと知りたい」「NPO の立ち上げ講座があったら受講したい」という声をもとに企画した講座です。NPO に参加したい人から法人化を考えている人まで、次の一步のヒントを凝縮してお伝えします。

9月28日(土)13:00～15:30

「続・NPOいろは塾」を開催しました！

NPO いろは塾を受講された方にご案内したところ、8名のご参加がありました。定年前後の年代が中心で、みなさん「自分にできる範囲で社会に貢献したい」という思いをお持ちでした。



講座のポイント！

1. NPO への参加方法

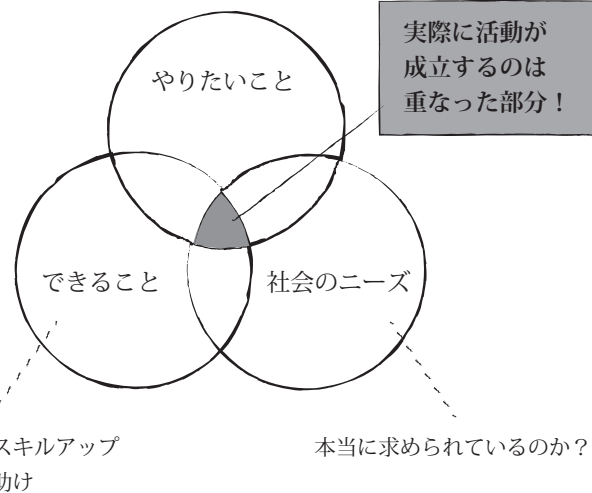
NPO への関わり方は、ボランティア、寄付をする、イベントに参加するなどさまざまです。参加する NPO 選びは、自分の興味・関心を整理するところから。サポセンや新聞、インターネットを活用し、設立目的、活動内容など自分に合った NPO を見つけましょう。焦らず段階を踏んで参加すれば良いのです。

2. NPO の立ち上げ方

最初から NPO 法人としてではなく、まずは任意団体から始めてみましょう。「やりたいこと」「できること」「社会のニーズ」の3つが重なったところが活動のポイントです。人に話すこと、書き出すことで活動が整理され伝わりやすくなります。実績のある団体の立ち上げ事例とともに、必要なステップを学びましょう。

3. 法人化

任意団体との大きな違いは、団体が契約の主体になれることです。NPO 法人の他にもさまざまな選択肢があり、それぞれ設立の条件や方法が異なります。法人化や手続きについてのご相談は、サポセンまでお気軽にどうぞ。



講座後は、熱心に質問する方、1階の情報コーナーをじっくり見る方など、次の一步を踏み出す様子も見られました。サポセンでは、NPO に参加してみたい、立ち上げたいという方の相談に応じています。こんなことを相談してよいのかな、などと迷うことはありません。お気軽にお声がけください。(難波未由希)

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

NPO いろは塾

のぞいて
みよう…



- 会場：仙台市市民活動サポートセンター
 参加費：無料
 定員：15名（先着順）
 内容：NPOの基礎—いろはの「い」を学ぶ講座です
- 1.NPOについての基礎知識
 - 2.NPOはじめの一歩
 - 3.サポセンガイドツアー

つながる つなげる サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▷仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

▶相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

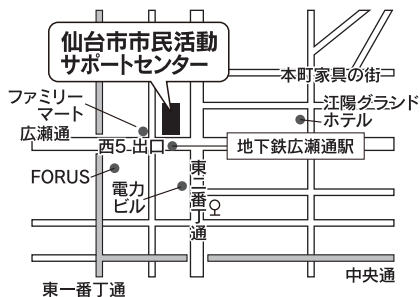
このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日祝：午前10時～午後5時

▷ご案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
 [最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前
 [地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ
- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
 注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

11/6 水
19:00 ~ 20:30

お申込み受付中!

12/7 土
14:00 ~ 15:30

お申込み受付中!

1/26 2014 日
10:30 ~ 12:00

お申込み受付中!

▶NPOってどんな組織なの？

▶NPOのしくみや参加方法を知りたい。

▶今さら人には聞けないし…



そんな方におススメです。

90分でNPOのいろはを学ぼう!

▷「ばれっと」読者アンケート にご協力をお願いします!

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

「こんにちは！」今、元気な声がサポセンの受付に響いています。サポセンでは、中学生の職場体験を毎年受け入れているんです。初々しい「サポセンスタッフ」たちは、一生懸命に仕事に取り組んでくれています。短い時間だけど、働くこと、NPOのこと、ちょっとでも何か感じてくれればいいな…「先輩スタッフ」たちは、そんなことを思いながら、彼らを見守っています。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
 TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
 HP <http://www.sapo-sen.jp>
 Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013年10月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
 編集人：菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

▽開館時間

平日：午前9時～午後10時 / 日祝：午前9時～午後6時

▼休館日

毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日・木曜日）
 及び、年末年始（12/29～1/3）

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]